

農作物生育概況

令和5年4月20日現在

<作物>

水 稲：例年よりも早い雪解け、気温上昇により作業を早める農家もあり、4月8日頃から播種が始まった。その後気温が低い傾向となり浸漬期間を長くしているため、ほぼ平年並みの播種作業となっている。

田植えは連休明けから始まる見込み。積雪が少ないため代かき以降、梅雨入りまでの水不足を懸念する地域もある。

小 麦：積雪が少なく、春の融雪も進んだため3月下旬にはほ場に入れる状況となった。一部地域では雪腐病が多発したが、現在は回復して平年並みの生育となっている。4月上旬で幼穂長5mmと2週間程度前進している。

<果 樹>

全 般：積雪が少なかったため、せん定作業は順調に進んだが、3月の暖かさで生育が進んだため、せん定が間に合わなかった園地も散見された。

生育は全般に平年より10日から2週間進んでおり、平坦地～山手、地域の南～北の生育差が平年より小さい傾向。

4月9、10、18、25日の低温で凍霜害の被害があった。

りんご：人工受粉に関する問い合わせが昨年より増加。凍霜害対策（事後対策）として人工受粉を実施している様子が見られる。

ぶどう：ハウスぶどうの出荷が4月末から始まる予定。露地は発芽～展葉期となっている。

核果類：落花期を過ぎたが、結実確認にはもう少しかかる。プラムで着果が少ない園地がある様子。ももでも下枝中心に一部で凍霜害の影響がある。

日本なし：落花期を過ぎたが、結実確認にはもう少しかかる。一部で着果が少なく、果実が選べない園地がある。

<野 菜>

アスパラガス

中野市の半促成作型では2月下旬から始まり、3月20日初出荷（昨年3/22）、4月初めから本格的に収穫が始まった。飯山市のハウスでは、3月20日頃被覆で、4月6日から出荷が始まった。

露地では中野市で4月中旬から萌芽が始まり、ほぼ平年並みだったが、4月10、18日の降霜で、一度全刈りを行った。飯山市では4月20日頃から萌芽始まる。

<花 き>

シャクヤク

岳南：3月の気温が高く雪解けも早かったことから、どの作型も7日～10日程度生育が進

んでいる。

加温作型では出荷が始まっており初出荷は4/5。露地作型の生育ステージは出蕾期、草丈40cm程度で、花蕾も直径2cm以上となっている。-3℃以下の低温となった場合は凍霜害が心配される。

岳北：生育ステージは萌芽期~出蕾初期。岳南と同様3月の気温と雪解けが早く、上旬の生育は7日程度進んでいるとみられていたが、夜温が低く推移したため下旬には平年の生育速度に戻りつつある。

その他品目

- ・フィリアマドコロ：収穫期。5月上旬まで出荷予定。
- ・スズラン：ハウス及び露地物の収穫期。(5/1 スズランの日)